

以下モンゴルで起業した女性のブログから無断抜粋しました。

かけがえのない自分だけの人生テーマ：この数年間で得たもの、失ったもの

2007年6月15日から今日まで、そして明日からもずっと考え続けるであろうこと。

「私はモンゴルで起業して、何を得て、何を失ったのか」

自分の人生を賭けて、本気でモンゴルに取り組む決意をして90リットルのダッフルバッグだけを持ってウランバートルに戻ってきたのが2001年のこと。

何がなんだか完璧に理解しないままに、モンゴル人の助けをかりて、起業の登記手続きが完了したのが2002年5月3日。それから、ずっと私のチャレンジは一日も休むことなく続いています。

お金が全然なくて心細くなったこともあれば、大きな仕事が次々にとれて、今までの出費を挽回できるかもー！とはしゃいだこともありました。

数字上はお金がたまったようで、家でもアパートでも車でもなんでも買えちゃうような気がしたこともありました。

一言で言えば、「経営者気分」だったり「金持ち父さん」いうところの「ラットレース」を抜け出してファストトラックに入れたぞー！なんていい気になってたこともありました。

起業してから3年間の資金繰りに一喜一憂していた日々から、一点、お金の有効活用を皮算用してうっしっしとなったのは、わずか1年ちょっと。そして、記念すべき2007年。信頼していたモンゴル人に会社をあやうく乗っ取られそうになり、今まで避けて通っていたもろもろの社会的な司法手続き、行政手続きのすべてを自分の力でやらなければいけなくなりました。

なんだかんだと得た車は会社名義でロシアンジープと中古のデリカ。そして私名義で韓国製のマイクロバス。起業5年ちょっとでオフィス物件をウランバートル中心部の一等地に購入できたりと、私なりにがんばったつもりだったのですが、、、車も会社の回転資金も私個人の預金もぜーんぶ、モンゴル人共同経営者とその姉婿のマネージャー君の操作で奪われました。

未だにかえってきてないけれど、まあ、そのうち私の手に戻るべきものは戻ってくるんじゃないかしら。

この経験で失ったものは、少なからぬ額のお金とモンゴル人への信頼。そして私自身の信用。ほかにもいろいろあるかもしれないけれど、忘れちゃいました。

失ったって思ったものは失ってしまうんだけど、戻ってくるって信じてるものは、いつの日か巡り巡って戻ってくるってなんだか根拠はないんですが、確信しているのですよ。

得たものは、自分自身でがんばる力とノウハウ。人を赦す心と信仰心。自分で道を切り開き生きていく自由。本当の友達。ものすごく寛大でおおらかな心。

お金では絶対手に入れられない、むしろお金を手放すことで、あきらめたことで得ることができたかけがえのないものの数々。

失ったって考えることはネガティブなんだけど、人間、生きてさえいれば失うってこともそりゃあるわな。失うっていうのは、自分から離れていくわけで、ほんとに必要なものは全部が完全に自分から失われることはないんだって気づきました。

だって、私は自分で稼いだお金で自分名義の自宅アパートを購入しているし、愛犬ソート

ンも一緒にいる。愛する家族も健在で私も元気で働いています。一時期はモンゴル人なんか信じられない！って人間不信になったけれど、執着心を捨てたことで、また気楽につきあえる友達はむしろ増えています。偶然ばったり15年ぶり、18年ぶりの旧友に再会できたのも、よくない人たちが私の周囲から去ってくれたからなのです。

自分がやるべきことがなんなのか、やりたいことがなんなのか、を見つめる時間がたっぷりできて、望んだ仕事は次から次へと舞い込んでくる。

苦難の起業から3年間ののちに生まれた、かつての、「うはうはサイクル」が再び、巡ってきています。

「こうしたいな」って心から望んだことがどんどん私に吸い寄せられるように舞い込んでくるミラクル。毎日がこんな風になったのも、お金が手に入ったはいいけれど、ちっとも有効活用せずに貯め込んだがために淀んでしまった自分の運気が、ばーっと執着を捨てたことで、本来の流れに戻ったってことなのでしょう。

私を裏切った人たちには、彼らなりの理由があり、言い分があるんだと思えるようになりました。だから私は彼らが私にしたことを悪いことだとは思わないし、裁判で争うこともやめました。

私も彼らとの食い違いを感じていたわけだし、その食い違いがお金に対する執着だったり、私の仕事至上主義の押しつけや、自分がいるから仕事ができるんだみたいな傲慢さなんか、彼らのプライドを傷つけてしまっていたことも確かなことで、反省すべきことなのです。私も恥ずべきことをいっぱいしちゃってたのです。人としておかしかった過去の数々を後悔しても仕方がないから、私は今を一生懸命生きるしかない。

彼らもまた、家族を養い、自分たちの夢を実現しようとかんがっているのだから、うまくいけばいいなと心から祈っています。彼らが私と関わったことで失ったもの、得たものはそれぞれ計り知れないほど大きいもので、彼らの人生にとっても大きな意義があると思います。

因果応報っていうけれど、私も彼らを傷つけてしまったのに、悔い改め、祈りの時間を取り戻したことで、心が解放されたのですから、彼らもまた天罰などを受けることなく、心の平安を取り戻し、自分たちがほんとのシアワセを得るために何をすべきかに気づいてくれるといいなあ、と祈っています。

社会的地位も、いろいろな便宜を図ってもらうためのモンゴル国内の人脈も、財産も、健康も、一時期は失ってしまったような気がしていました。

でも、確かに預金は露と消えてしまったけれど、失ったのではなく、私がお金を大事にしなかったから、それを欲していた人たちのところに移ってしまっただけで、ほんとに必要なものはちゃーんと1年半かけて戻ってきました。

面白いですね。3年かけてがんばって築いたものの、それがほんとに自分にとって必要なものじゃないなあ、なんて違和感を覚えていたら、一瞬にして私から離れていったのに、あわてて、もう一度、欲しいものを見つめ直し、「これは必要だ！欲しい！もどってきてー」って望んでいたら、1年半という時間をかけて少しずつ、欲しいものだけ戻ってきました。

大切な友達や仕事の人脈も、会社物件を活用する方法も、仕事も、健康も、そして少しずつだけお金も、全部、私が失ったとき以上に理想的な形で再び手にすることができてい

るのです。不思議だなあ？

でも、これもまたミラクルではなく、必然なのだと思います。

自分が本来の自分を取り戻し、そして、自分自身を築き上げるために、すべての過程が必然でだったのです。一度は得て、失い、そして再び、2倍になって取り戻す。

取り戻したのではなく、再び授かったのだと思います。

この世で私が手にすることができるものは、たくさんあるけれど、何一つ、「私だけのもの」として所有し続けることができるものはない。ほんとに必要なときはちゃーんと今、私のところにある。だから、どんなときでも心配せず、怒ることも恨むこともせず、「何が何でも失いたくない！」って意地を張らずに手放してしまえばいいと考えるのです。結婚しなくちゃ、仕事しなくちゃ、貯金しなくちゃ、子供生まななきゃ、と焦らなくても、自分に必要なものは必要なときに必要なだけちゃんと手に入ってくるもんです。

このことは、モンゴルの遊牧民は知っているし、狩人たちも知っていました。市場経済化、って制度のために、すべての物事をお金という物差しではかる価値観に振り回されてしまっているけれど、ほんとに大事な人生の核の部分は、たとえどれほど、混乱していても、そのうちまた気がつけるものです。

二度と取り戻せない、なんて思わなければ、ちゃんとかえってくるし、再びやり直すことができるから、この世界は素晴らしい。

望みさえすれば、幸せって、どこにでも石ころのように転がっていて、空気のように吸い込むことができるもんじゃないかなあ。

人が生きていくためには、息を吸うだけではなく、はかなきゃ息が続かない。

大きく息を吸い込むためには、最初に、大きく、肺の底から息を吐き出さなきゃいけないものです。

水泳しているとわかると思うんだけど、潜水で泳ぐときは、息を止めて泳ぐよりも少しづつ吐きながらのほうが速く楽に泳げる。

地上にいると意識せずに呼吸しちゃうから、必要なのは、吐くこと、出すことだって忘れちゃうんですよ。

モンゴル人共同経営者たちが私と違う道を選んだのも、彼らにとっては必然であり、騙したって意識もないのかもしれない。物事は一つの方向からだけ見て是非を判断すべきじゃないってことも、教訓として得られました。彼らからしてみれば、私は10年単位で会社をこのモンゴルに定着するためにしようと考えていたことは、「いつまでたってもビジネスを大きくできない無能な経営者」と判断して見切りをつけて、せっかくのお金を有効活用したいって思っちゃったのかもしれない。私が想像も及ばないような壮大なビジネス構想を何度となく話していたもの。私がちっとも乗らないから、「共同」ってんだから、俺たちにだって権利はある！とばかりに会社のお金をばーっと使っちゃって、車も「どうせあいつは乗れないんだ」って思って持ってっちゃったんだって思うと、ま、納得なんですよ。

動かさないでいるよりも動かした方がいいってことですものね。

私は自分の手から離れてしまったものをどう見つめるかっていういろんな方向をこの2年弱の間にみつけました。

騙されたっていうこともできるし、奪われたっていうこともできる。裏切られたっていう

こともできる。

でも、こういう当たり前の見方をやめて、彼らと違う、私だけの道を選ぶために必要なコストだったって思うことにしたら、びっくりするくらい楽になりました。彼らには気の毒だと思うけれど、多額のお金や財産をあきらめることのほうが、彼らと争ったり、お金に執着して、いつ戻ってくるかわからないもののために裁判沙汰だの警察沙汰だのとごたごたしながら時間を浪費するよりも、よっぽど私にとっては理にかなっていることです。彼らにとっても、欲しいものを手に入れて、私とも手を切ることができたらシアワセだと思うしね。

何が何でも取り戻したい財産でも、何年かかってもさばいてほしい、私が正しいって証明したいってこともなくなっちゃったし。

あいつらをぎゃふんといわせてやりたい！私が味わった恐怖や苦痛を味わうべきだ！出るところに出て、奴らの悪事を暴いてやる！モンゴルだって法治国家なんだ。絶対負けないぞ！

モンゴル人弁護士にあおられて、そんな負けん気で踏ん張ってたときもあったのですが。今の私は幸せです。ほんとは日本でだって、モンゴルでだって、倫理に反するなあとか、やりきれないなあって目に遭ってるんだとはわかってるんだけど、それでも、私、心から自分が自分の人生を幸福に満たされた愛情たっぷりの素晴らしいものだって感謝しています。物事を良い悪いで判断しないですべてを受け入れる心。

雨や雪を悪天候と思わずに、天からの恵みだって受け止める遊牧民たちが、その感謝の気持ちでいつも私に思い出させてくれます。

愛すること、赦すこと。感謝すること。そして、謝罪すること。

彼らが私に何か悪意を持つときは、多分、彼らが最初から悪意を持つために生きていたのではなく、何か作用してしまったのだと思うから、そのことにはごめんなさいって思います。

すべて辛い、悲しい、悔しいって自分がどん底だ一って思ったすべてのことは私のために用意された必然なのだから、会社を起業してから、やりがいのある仕事をたくさん経験できたこと、クレームや誹謗中傷で打ちのめされたこと、両方を経験できたモンゴルと私が出逢ったすべての人たちに感謝しています。

人生はいくらでもやり直しがきくんだってことを信じられるようになったことが、失ったことよりも遥かに大きいことですね。自分がいろんなびっくりを体験できたおかげで、他の人が、このモンゴルやそれ以外のところでも理不尽な出来事に傷ついたとき、そばにいて、少しだけ元気をわけあうこともできるようになりました。お金がなくなっちゃったから、お金で解決、なんて思わなくてもよくなったし、お金目当てに近づく人に利用されて嫌な気持ちになることもなくなりました。失ったって思わずに、手放したって思うこと。得たって思わずに、一時的に預かってる、使わせてもらってるって思うこと。

完全に自分の所有物とあてとどめておけるものがこの世にあるとしたら、それは自分の心と愛情だけだってこと。幸福って意外とシンプルなもんなんですね。

私はモンゴルで失ったものはたいしたもんじゃなくて、むしろ、その何倍も得しているし、これからも限らない希望と幸福を授かるであろうことにわくわくしながら感謝する毎日だっていうのが、毎日の終わりに実感する、結論なのです。